

■ これからのイベント情報

ゴールデンウィークも金山博物館へ！

水	木	金	土	日	月	火
5/1 休館日	2 通常開館	3 憲法記念日 通常開館	4 みどりの日 通常開館	5 こどもの日 通常開館 たまごくじ実施	6 振替休日 通常開館	7 通常開館
← ゴールデンウィーク期間 →						

こどもの日限定！
5/5㊥ すてきなプレゼントゲットのチャンス「たまごくじ」



- ※チケットご購入の小学生以下のお子様限定。一人一回まで。なくなり次第終了
- ・期間中、砂金採り体験室の天然石&純銀粒増量！
- ・1分間で一番多く砂金を採ることができるのは誰だ！好評の不定期開催ミニゲーム「ハイスピード砂金採り」

5/12㊥ 13:30～14:30 第4回 館長講座「甲斐源氏と峡南」

- ・場 所：博物館1階 多目的ホール
- ・参加費：無料 ※事前申込不要
- 当日、講座の開始時間までにお越しください

5/18㊥ 14:00～16:00 山梨文化学園「歴史文化教室」
～よみがえる山梨の歴史と文化～

- 第2回は小松学芸員が「よみがえる甲斐の金山—ゴールドラッシュに沸いた国—」と題してお話します。
- 場 所：山梨文化学園（山梨県甲府市北口2-2-5）
- ※詳細は山梨文化学園の公式HPよりご確認ください。



■ 先取り夏休みイベント情報！

- 7/21㊥ おしえて☆みやもん先生！
第16回化学実験教室
- 7/27㊥ 第24回 砂金掘り大会
- 7/28㊥ 第21回 砂金甲子園！
東西中高交流砂金掘り大会
- 8/ 4㊥ 夏休み自由研究相談室in金山博物館
- 8/11㊥ 第23回 激烈☆おやこ金山探険隊

※上記は2024年3月時点の予定です。日時が変更になる可能性もありますので、最新の情報は博物館HPでご確認ください

編 | 集 | 後 | 記

卒業、入学、異動など、春は出会いと別れの季節です。この春に新しい門出をむかえた皆様、おめでとうございます。それぞれの新しい場所での活躍を祈ります。リバーサイドパークのカワツザクラの花を添えて…。



甲斐黄金村・
湯之奥金山博物館だより

第107号
令和6(2024)年3月25日

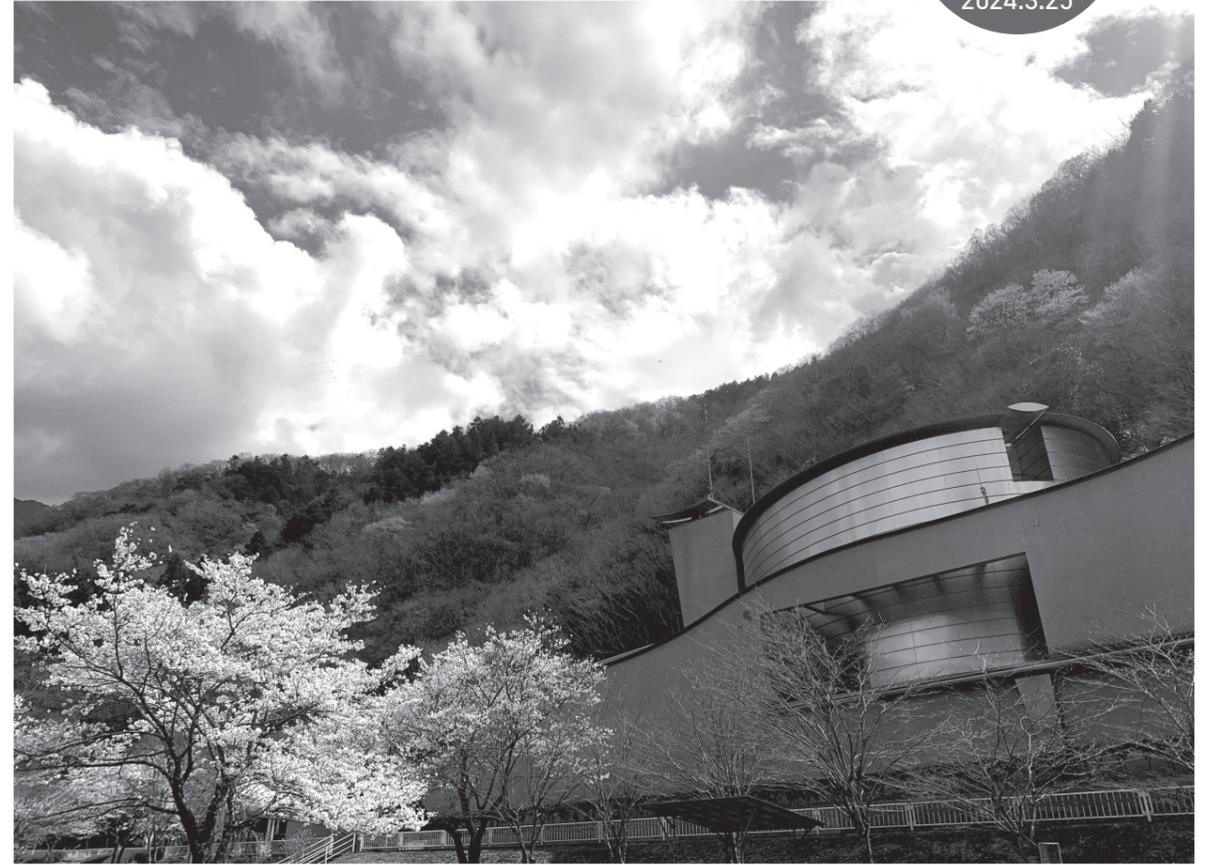
発行 甲斐黄金村・湯之奥金山博物館
〒409-2947 山梨県南巨摩郡身延町上之平1787番地先
TEL 0556-36-0015 FAX 0556-36-0003
博物館HP▶<https://www.town.minobu.lg.jp/kinzan/>
E-mail▶yunoking@town.minobu.lg.jp もーん父さん▶X(旧Twitter) & Facebook



甲斐黄金村・ 湯之奥金山博物館だより

国指定史跡・甲斐金山遺跡—中山金山

No.107
2024.3.25



ありがとう! 開館27周年

湯之奥金山博物館は2024年4月24日(水)で開館27周年をむかえます。今から36年前に実施された湯之奥金山遺跡総合学術調査は、甲斐金山を端緒として日本の産金の歴史を明らかにしました。それから4年後の1997年、歴史的に価値が高い資料の保存活用・展示公開を通じて、学術文化と観光両面の振興に資するために当館は開館しました。現在、鉱物資源への関心が高まり、わが国の産金史にもスポットがあてられています。そうしたなか、当館の令和5年度の有料入館者数は2万2千人を超え、開館以来の総有料入館者数は48万人を数えます。これからも足を運んでくださった多くのお客様に楽しんでいただき、館が一層のにぎわいで溢れるよう取り組んで参ります。

就任後1年を振り返って-「シン・ドウノヘヤ」からの話題に寄せて-

甲斐黄金村・湯之奥金山博物館 館長 信藤祐仁

私が甲斐黄金村・湯之奥金山博物館の館長に就任して早くも1年が経とうとしています。この1年を振り返ると、たくさんの出会いや経験があり、とても充実していたと同時に時の流れの早さを感じます。若いころには時のたつのが遅く感じられ、学校から解放されて早く大人になりたいとあれほど思っていたのに、今では1年なんて瞬く間に終わってしまいます。

年齢とともに時が経過する速度が速くなる現象を、「ジャーネーの法則」というそうです。生涯のある時期における時間の心理的長さは、年齢に反比例するというものです。時の長さは1秒、1日、1年とすべての人が同じであるはずなのに、主観的に記憶される時の長さは幼少期には長く、年配者には短く感じられます。人生で一番若い自分は「今」です。ただいたずらに時が過ぎてしまうのはもったいないものです。

そうしたことから、館での日々を記すため「シン・ドウノヘヤ」と題した館長ブログを始めました。このブログのタイトルの「シン・ドウ」は名字(姓)の信藤(しんどう)からきています。でも「シン」のあとの「・」中点は何なのかといいますと、「シン・ゴジラ」にはじまり、「シン・仮面ライダー」などのシリーズに由来します。私は普段SNSやブログなどを利用しないので新しいチャレンジでした。週に1回は更新することを目標に、みなさんに気軽に見ていただこうと、あまり固い話題にならないよう心がけてきましたが、新チャレンジもそろそろ1年が経とうとしています。

今回は「シン・ドウノヘヤ」から、いくつかお気に入りの話題をご紹介します。

▶6月4日(日)のブログより

6月11日に実施する第1回「シン・サンポ」の下見に、「常葉(ときわ)」に先日行ってきました。甲斐常葉駅に集合し、日向の道祖神→常幸院→旧下部中学校(本栖高校)→東前院→諏訪神社→甲斐常葉駅とまわって来るコースの予定です。



日向地区の道祖神場にはいくつかの石造物が集められており、記念碑のほか三種3体の道祖神があります。流造屋根のつく双体道祖神、舟形の双体道祖神、自然石の丸石道祖神です。屋根付きのものには寛延四年(1751)の年号がありますが、石が脆いためヒビが入って紀年銘が無くなってしまっているものも時間の問題かもしれません。顔はもう表情がわからなくなっていますが、左の女性像は右手に扇子を持ち、左手を合掌している男性像の肩に置いています。舟形双神像は掌に掌を重ね仲睦まじい姿をしておられます。丸石のものは甲府盆地東部に多く分布しているものと同じく、縄文時代にはじまった丸石信仰がそのルーツと思われる。

道祖神というのは、本来中国の道の神と日本古来の邪悪を遮る神とが合わさったもので、集落の入口や辻に立って災いの侵入を防ぎ、村を守る神でありました。また、旅人の安全を守り、良縁・和合の神、さらに生産神、農耕神など複

雑に重層的に発展してきました。いろいろな側面を持つことから、それぞれの地域では賽の神、道陸神、衢神、岐の神、サルタヒコなど様々な別名があります。



常葉地区には文字道祖神や石祠形道祖神も各小地域にあつて、種類も豊富であります。いずれにしても当地域一帯には魅力的な道祖神が多く、石造物愛好家にはたまらない地域です。

▶8月10日(日) ブログより

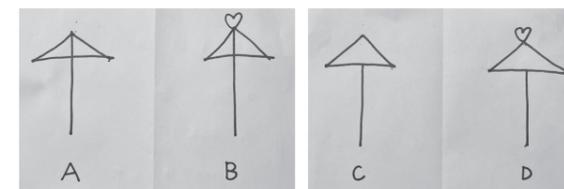
博物館と下部リバーサイドパークの看板や公衆トイレの内外ともに、落書きやいたずら書きは皆無です。ひと昔前には、至る所に落書きがありました。下部温泉駅のトイレやホームでもまったく見ることができませんでした。温泉観光地なのできれいにしているだけではなく、訪れる方々のマナーも向上している結果だとも思います。いくら探してもないのには、正直驚きました。



しかし、温泉街の一部の道路壁面や熊野神社の板壁には、少し時間の経過した平成や昭和時代の落書きがありました。相合傘、ドラえもん、ピカチュウのほか、訪れた記念日や名前などを記したものです。



相合傘は、昔から落書きの定番でした。この相合傘の落書きは、江戸時代の「北斎漫画」にも便所の壁に描かれていることから、200年以上の歴史があります。かつて平城宮から出土した土器に「我、君、念」の三字を合わせた墨書がみられ、「君我を念い、我君を念う」と推測されて、相合傘に通じるまじないと解釈されていました。しかし、これは逆に夫婦の離別に関わる呪符として用いられたものだと後にわかりました。



今みなさん相合傘を描いてみてください。相合傘は年代によって、描き方が異なるだけでなく、意味も真逆になっているのです。これは地域性や時代によって微妙な若干のズレがあるので、おおかたの傾向としてとらえてください。私や50才代以上の方が描くのはAです。三角形の頂点から傘を突き抜けて真中の線が来て、その両側に自分の名前と思う人の名前を書いて相思相愛になることを祈るまじないです。これにハートがつくBや傘が突き抜けなくてハートがつかないCは40才代、傘が突き抜けなくてハートの付くDは20代以下です。当館の職員の年代別描き方にこのような差が出ました。Aは30代以下の人には別れ傘として、付き合っている人の離別を願う意味のまじないであるそうです。さらに、思う人の気持ちがこちらに向かうように傘を自分の名前のほうに軸を傾けたり、握り手部分の「J」の部分を追加して自分側に向けたという例もあったそうです。

このように落書き一つをとっても、時代による形の変化と意味の付加や逆転があり、歩んできた歴史があるのです。

▶ 9月24日(日) ブログより

身延町内には15か所の郵便局があります。このうち3か所は簡易郵便局です。これらの郵便局のうち6郵便局に風景印があります。風景印は郵便局の消印の一種で、局名と押印年月日欄と共に、局周辺の名所旧跡等に由来する図柄が描かれています。その地域のことを知るには、うってつけの素材です。大学時代の友人に郵趣界では著名なコレクター兼研究者がおり、5月に博物館を訪問してくれた際にも風景印を複数ゲットしていました。これはいつかこのブログでも使えるかなと思い、今回集めてみましたので紹介します。



下部郵便局の風景印は、温泉街の街並みと背後の山々、それに温泉マークに武田菱が配されています。鎌倉時代以前にさかのぼる歴史ある温泉は、武田信玄公の隠し湯としても知られています。身延山局と身延局は宗紋の枠内に身延山久遠寺の建物が配された同じ図柄で、古閑局と久那土局も同じで木喰仏と本栖湖からの富士山、切石局は句碑の里がデザインされています。



▶ 11月4日(日) ブログより

「エノコログサ」は、漢字で書くと「狗尾草」なんです。狗は犬のことで、その形が犬のしっぽの毛のふさふさしているところに似ていることからの命名だそうです。「イヌコログサ」とはならず「エノコログサ」になったのは、誰かの発音がなまっていたものを正式名称に採用されたからだと考えられています。でも、一般

の私たちには「ネコジャラシ」としての通称名の方になじみがありますね。その穂が風に揺れるのを見て、猫がじゃれ遊ぶ様子から名前が付けられました。この形に似せた猫用の遊具は、ペットショップやホームセンターで今でも売られています。



現在は穂も茶色になってしまいましたが、夏まではきれいな緑色をしていました。野山にあるのはいいのですが、繁殖力が強くて畑や庭では手のかかる雑草です。犬のしっぽに似ているから「エノコログサ」、猫がじゃれるから「ネコジャラシ」、英語では「Green foxtail grass」(狐のしっぽ草)と同じ草なのに、犬だったり猫だったり狐だったり。いろいろな動物に関連付けられているのは面白いですね。

おわりに…

何気ない日常のなかにもちょっと立ち止まってみたり、視点を変えてみたりすることで面白い発見があるものです。これからも、いろいろなテーマの話題を紹介していきたいと思えます。たくさんの方にご覧いただけたら幸いです。



◀「シンドウノヘヤ」は当館HPにて掲載中です。左のQRコードからご覧いただけます。

■ 調査研究活動 01 1/25 ㊟ 老平金山 現地確認調査

身延町と隣接する早川町には他市町村には類を見ないほどの数多くの金山遺跡が確認されています。早川町誌に掲載されている金山数はざっと22金山。その多くが山深くに存在し、獣害懸念から人が足を踏み入れることが困難となり、今となっては道も荒れて金山跡がどのあたりにあるのかすら特定が難しい状況です。そんななかではありますが、NPO法人上流文化圏研究所の発刊誌『やまだらけ』で報告がなされている茂倉鉦山や老平鉦山は、現在でも探訪が可能な鉦山遺跡として知られています。

博物館で老平金山見学会を開催したのは2016年。実に8年ぶりの探訪です。近年の大規模な自然災害の影響により、河岸に形成されていたテラスは大きく削り取られ、かつて見ることができた坑道も近づくことすら容易ではないほどに、その姿は大きく変わっていました。記録に残していくことの重要性を痛感する現地確認調査となりました。



▲かつての見学会では人が下りられるほど平らな地形で、坑道跡も確認できました(左は現在)

■ 調査研究活動 02 2/16 ㊟～24 ㊟ 大炊平 柴金遺構調査

当館の重要な活動基盤である鉦山遺跡の調査研究活動は、実に地道な取り組みです。特に地方の人口減少が叫ばれるなか、こうした調査研究・資料収集・保存・展示・公開を通じて、地域住民をはじめ広く一般の人々の文化的活動を豊かにする場を提供することが、当館の使命です。地域に残る金山遺跡の価値を地元の皆さんが知り、理解して発信し、地域活性化や未来につなげていく。こうしたサイクルが構築され「地域の宝」を軸に「地域の持続性」につながるよう、湯之奥金山外の鉦山遺跡の調査研究を行っています。

さて、常葉・大炊平集落に中山金山総合学術調査よりはるか以前から金山に関わるのではないかと伝えられるものの、その詳細が何もわかっていない遺構があります。狭く開口している「坑道」と思しき穴の内壁が川原石で組まれるそのようすは、まさに柴金遺構。しかし地元には、金山にまつわる伝承すらまったく残っておらず、「謎」に包まれています。

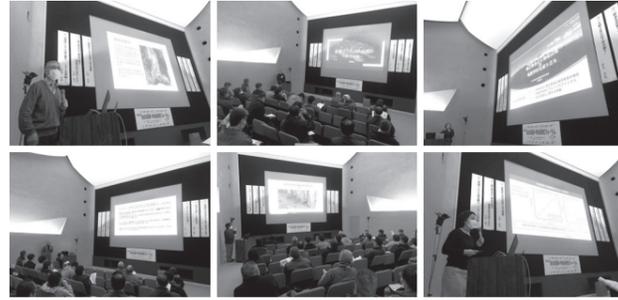
近年、鉦山史の分野では、これまで「山金」ほど注目されていなかった「柴金」に焦点を合わせた研究が進んでいます。もしかしたら甲斐金山遺跡開発以前の産金の歴史を紐解ききっかけがここにあるかもしれません。現在、大炊平集落の皆様にご協力いただきながら、調査を進めています。謎につつまれたこの穴に関する調査のようすは、当紙にてまた報告させていただきます。

■ 調査研究活動 03 3/19 ㊟ 資源・素材学会 春季大会に参加

調査研究を行ったら、今度はその成果を広く公開していくこともたいせつな活動です。そうした学術研究の情報発信の場として学会の重要性は極めて高いものです。当館が積極的かつ継続的に参加しているのが、資源・素材学会の「鉦業史」分野です。同学会は年に2回開催され、2024年春季大会は千葉工業大学を会場に開催されました。当館からは小松学芸員が「金挽臼の形状についての考察」、伊藤学芸員が「茅小屋金山の炭焼窯遺構について」、そして博物館応援団 Au 会の石田政明氏が「金挽臼製作実践を通して - 第2弾」を発表し、当館の金山史研究の現況の一端を発信しました。

■活動報告 01 2/3 ㊥ 第12回 金山遺跡・砂金研究フォーラム

「博物館応援団 Au 会」のみなさんが金山博物館を拠点に展開するフィールドワークでの体験をテーマにした研究発表会です。国内外の金山や砂金に関する6人の口頭発表と3人のポスター発表を、参加者は興味深そうに聴いていました。



■活動報告 02 2/17 ㊥ 久間先生のものづくり教室

当館の調査研究活動にご協力いただいている九州大学専門研究員の久間英樹先生を招き、小中学生を対象としたものづくり教室を開催しました。今回のテーマは「LEDを使った螺灯づくり」。螺灯とは西日本を中心に、サザエの殻に菜種油や鯨油を入れて火を灯し、坑道内の灯りとして使われた道具です。当教室では、サザエの殻にLEDを付けて炎を再現しました。LED電球や電池ソケットと電池基板を接合するためのはんだ付けの工程があり、子どもたちは道具の使い方を学んだ後、真剣な表情で取り組んでいました。完成後は、照明をすべて落とした当館の映像シアターで自作の螺灯を点灯させカラフルな灯りを楽しみました。



■活動報告 03 2/25 ㊥ 第3回 館長講座「山梨の考古学— 峡南地域を中心として—」

旧石器時代から中世まで時代区分ごとに、博物館が位置する峡南地域を中心としつつ、県内遺跡の事例紹介を中心に話がなされました。当日はあいにくの雪でしたが、県外からの参加者もみえ、これまで長く考古学に携わってきた信藤館長ならではの話に参加者も聞き入った90分間でした。

■活動報告 04 2/25 ㊥ ミニ写真展「甲斐の山々」

山岳信仰を研究テーマのひとつとしている信藤館長が取めた山々の風景を紹介するミニ写真展を開催しました。甲斐駒ヶ岳や金峰山、鳳凰山など甲斐エリアの山々を中心に、なかには山梨から遠く離れた愛媛県の石槌山や鹿児島県の屋久杉の写真まで34枚の写真が並び、多くの来館者が写真の前で足を止めるようすがみられました。

■活動報告 05 3/17 ㊥ 第2回 シン・サンポ 久那土編

身延町の久那土地区をテーマに今年度2回目となるシン・サンポを開催しました。地名になっている「久那土」は「道祖神」の異称で、疫病・災害など災厄をもたらす悪神・悪霊が、集落に入るのを防ぐとされる神です。また、久那土は「くなく」、即ち交合・婚姻を意味するものという説もあります。そうした意味合いもあってか、久那土地区には多種多様な道祖神がみられ、今回の散策ルートでは文

字碑のほかに丸彫りの双体道祖神や石棒形道祖神、丸石道祖神などいろいろなバリエーションが見られました。

また、地域信仰の拠り所のひとつとなっている十五所神社では、境内にある道祖神をはじめ、宮司さんのご厚意で拝殿内の天井絵や絵馬を特別に見せていただきました。美枝きもの資料館では、上田美枝氏が収集した江戸時代から昭和までの特徴的な着物を中心に、皇室関係や島嶼部の着物などを見学しました。

参加者からは「いつもは車で通り過ぎてしまうけれど、身近なところに石造物や神社があると知り良い発見になった」と満足の声をいただきました。シン・サンポは地域の歴史をテーマに年2回、開催予定です。次回もお楽しみに。



■活動報告 06 3/23 ㊥ 山梨郷土研究会×湯之奥金山博物館「シリーズ・現地で学ぶ」

山梨郷土研究会では「シリーズ・現地で学ぶ」を開催しています。今年度1回目は「下部温泉と湯之奥金山の歴史」をテーマとし、当館から信藤館長と小松・伊藤両学芸員が湯之奥金山を中心に案内をしました。当日はあいにくの雨模様でしたが、県内から23人の参加がありました。湯之奥橋から内山・茅小屋金山周辺の地理状況を確認、門西家住宅の外観見学、温泉郷内を散策しながら熊野神社へ参拝しました。博物館では展示見学や砂金採り体験を行い、当地域の歴史を知ってもらうよい機会となりました。



■もーん父さん活動トピックス

博物館にたくさんの方が訪れてほしいとPR活動を頑張るもーん父さん。博物館での日々のグリーティングから町内外のイベントも参加まで幅広く活動し、少しずつその名が知られるようになってきました。今では、全国からたくさんの応援のお手紙が届くようになり、もーん父さんに会うために来館してくれる方もいます。

そうしたなか、日々応援してくださるファンの皆様に感謝の気持ちを伝えつつ、館へ足を運ぶきっかけにさせていただこうと、もーん父さんファン感謝祭を開催します。みなさまのご参加お待ちしております。 ※詳細は左記参照▶

**開館 27 周年記念
もーん父さんミーティング**

【日時】4月20日(土) 10時~正午
【場所】金山博物館
【内容】学芸員による解説付き展示観覧
砂金採り体験
もーん父さんとお話し
【定員】15人
【参加費】1,000円(入館・体験料が含まれます)
※博物館公式HP お問い合わせフォームからお申し込みください

もーん父さん写真展も多目的ホールにて開催!あわせてお楽しみください! 5/31 ㊥まで